

文化ビジネス通信

平成29年11月29日
長野県諏訪実業高等学校
SPH通信

2年目の今年は、1年目よりさらなる飛躍を目指し、地域の魅力をビジネスにつなげ、世界にも発信します。
Facebookにて「長野県諏訪実業高校文化ビジネス教育」の情報発信中です。



諏訪の伝統工芸を調査

信州鋸の紹介

2年商品開発の授業では、諏訪の伝統文化・産業を調査・紹介しています。今回は、長野県伝統的工芸品でもある信州鋸について、両角鋸工場の両角金福様より説明を受けました。

信州鋸の現場

実際に作業風景も見学しました

信州鋸は、はじめからおわりまで一人の職人が担当して製造することが多く、その品質の良さから全国でも評判が高かったそうです。一人の職人が責任をもってはじめからおわりまで担当するのが「信州人氣質」で、そこが評価されていたようです。
地元の方は、夏は百姓、冬は副業として信州鋸の生産をし、集落の半数近くが携わっていました。また、諏訪の地域は空気が乾燥しており、しっかりした焼きが入ったのも信州鋸が発展した理由の一つです。
そのような品質の高い信州鋸ですが、建築方法の変化によって、工場で家の部品の大部分が製造される現在では、鋸の需要は減少してきています。その他にも電動工具の発達、機械化による大量生産によって安価な鋸が市場で出回ってきたことによって、減少していきました。
現在では、信州鋸を専門に生計を立てている方はいないそうです。



実際に作業風景を見学させていただきました。目立て、修理の作業です。現在では新しいものを作るというよりは修理が専門になっており、良いものを長く使えるようにしています。フェイスブックでは作業の様子を動画で紹介していますのでそちらもご覧ください。
また、御柱祭の本見立ての際に使用された薙鎌も見せていただきました。こちらは神器であるため非売品だそうです。
薙鎌を今後も製造していくために、技術継承も含めて月1回集まり学習会が開かれていることをお聴きして、信州鋸の伝統が残っていくことを知り、少しほっとした思いでした。



生徒の感想

もっと多くの人に知って欲しい

生徒は実際の現場を見学させていただき、驚きと感動と感心でいっぱいでした。御柱を伐る際に使用した鋸(刃渡り60cm)を持ってみてその重さに驚いていました。「薙鎌、欲しいな、とか絶対買いたい人いるよね」と言っていたのですが、神器であり非売品のため手に入れることはできません。諏訪地域に住んでいても、信州鋸のことをまったく知らず、ネットで調べても詳しくはわかりませんでした。実際に説明を受けたことによって、こんなにも素晴らしいものであることを多くの諏訪地域の人たちに知って欲しいと思いました。

